

「大島かけはし」は、地域住民の皆様へ大島架橋事業に関する情報をお伝えするものです。

大島架橋事業は、今年度、路線測量と予備設計を行います。

～「平成20年度 第1回 大島振興と架橋を考える懇談会」を開催しました～

大島架橋事業を機会に、将来の大島振興について地域住民や産業団体などの方々と行政が協力して、意見交換や課題検討などをする場となる「大島振興と架橋を考える懇談会」の今年度第1回目が下記のとおり開催されました。

記

- 日時 平成20年9月28日(日) 午後1時00分から午後3時00分まで
場所 大島公民館大ホール
内容 (1)開会
(2)あいさつ 実行委員会委員長 菅原 昭彦 氏
(3)大島架橋事業の概要について
(4)今回のテーマ「アンケート結果に見る大島振興と架橋の課題について」
(5)閉会

委員長あいさつ



事務局による説明



実行委員会委員の意見発表



懇談会参加者との意見交換



（「住民アンケートの結果」について）

対 象：市内26行政区の約3,000世帯と大島中学校3年生

時 期：今年7月1日から14日まで

アンケート結果の概要

- ・アンケートの回収率は約36%という高い回収率でした。
→大島架橋に対する地域住民の関心度の高さがわかります。
- ・大島航路の旅客船及びフェリーの利用状況
→大島地区住民の利用頻度は高く、生活に密着しています。
また、船以外にも交通手段を必要とし大きな負担を強いられています。
- ・大島架橋事業について思うこと（期待，心配）
→期待が約67%，不安が約16%，多くの方々が期待しています。
- ・大島架橋事業について期待すること
→救急搬送に役立つ，自由に行き来ができるようになる，災害時の輸送路・避難路として役立つなどの意見が多く，大島では生活面での効果，本土側では観光面での効果に期待が多くありました。
- ・大島架橋事業について心配なこと
→交通事故や交通マナーの悪化，犯罪が増える，騒音やゴミの問題，駐車場の不足や交通混雑が起こるといった意見が多く，大島では生活上の不安，本土側では大島振興の面での不安が多くありました。
- ・大島架橋完成までに成すべきこと
→旅客船などの存続やバス路線の設置，自然や景観を壊させない，防犯対策や交通安全対策，橋の建設に住民の意見を取り入れる，緊急時の対応策を検討するなどの意見が多くありました。
- ・自由意見（将来の大島について）
→アンケートに答えていただいた方々の約半数から，大島架橋，交通環境整備，大島らしさ，生活環境の保全，観光振興，産業振興，地域活性化などに関する様々な意見があり，多くの課題と将来への希望がうかがえました。
しかし，大島架橋事業だけでは対応できないことが多く，地域住民，産業団体，行政が協力して解決していく必要があります。

（「大島振興と架橋を考える懇談会」について）

大島架橋が，離島である大島と本土とを結ぶことにより，大島のみならず気仙沼地域の社会環境に大きな影響をもたらすことが予想されます。

その影響は，対象者の立場や職業，居住地など，置かれている職業によって様々です。

架橋によって期待されるメリットを最大限に引き出し，危惧されることを最小限にとどめるためには，行政，地域住民，地元経済界等が個々の役割と責任を明確にした上で，連携を図っていく必要があります。その連携の場が，「大島振興と架橋を考える懇談会」です。

平成20年度から21年度にかけて，合計4回開催する予定です。

当懇談会は，「大島振興と架橋を考える懇談会」実行委員会が開催運営しています。

大島架橋についての「お問合せ」は [こちら](#)まで

宮城県気仙沼土木事務所 道路建設班

〒988-0034 宮城県気仙沼市朝日町1番1号

TEL.0226-24-2546(直通) E-mail:ksdbk@pref.miyagi.jp

気仙沼市 建設部 三陸道・大島架橋・唐桑最短道促進課

〒988-8501 宮城県気仙沼市八日町一丁目1番1号

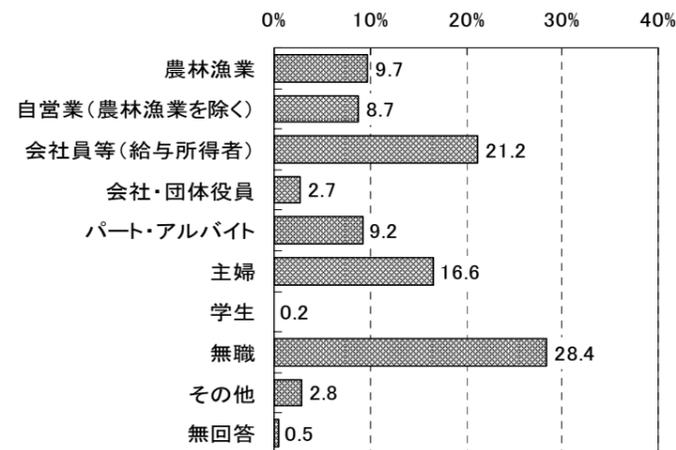
TEL.0226-22-6600(内線567) E-mail:project@city.kesenuma.lg.jp

アンケートの結果について

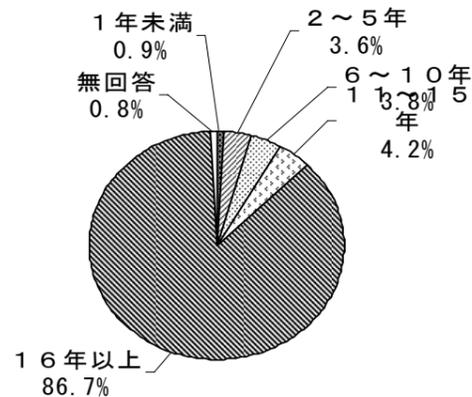
1. アンケートの回収状況と属性

<1>一般事項

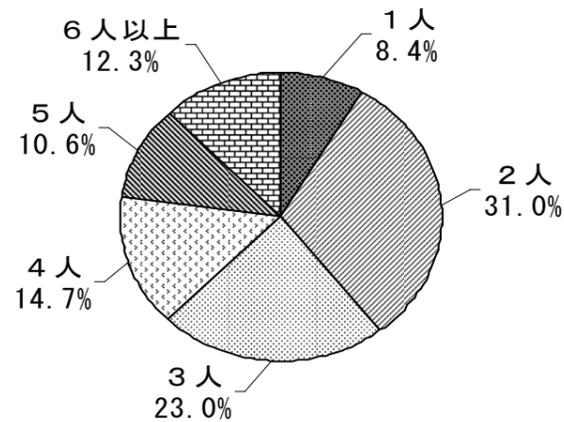
① 職業分類 (全体)



② 居住年数 (全体)



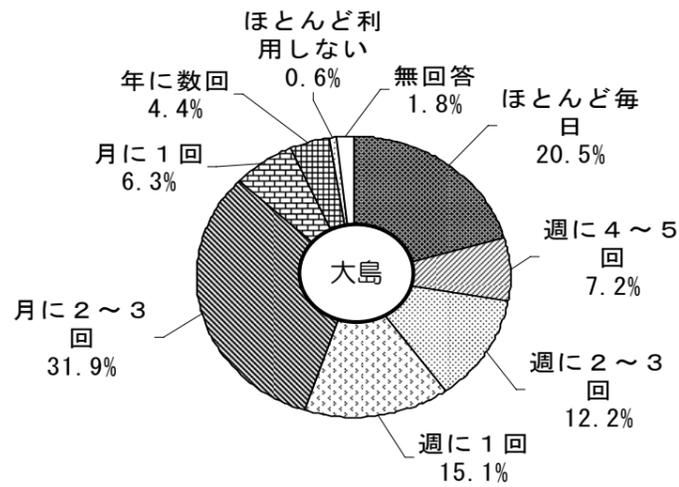
③ 家族構成 (全体)



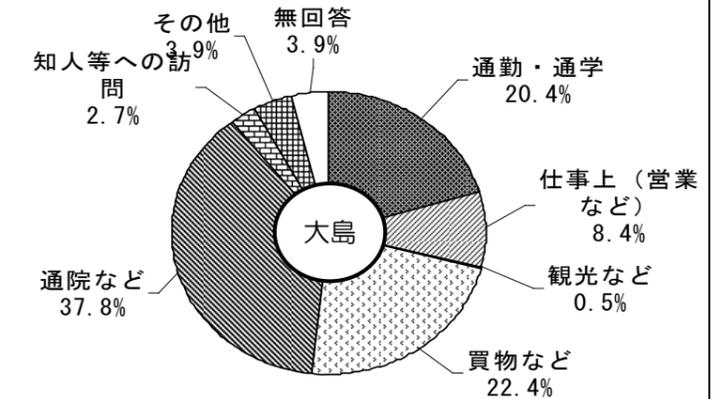
1世帯当たり2~3人の家庭が多い

<2> 旅客船・フェリーの利用状況

① 旅客船・フェリーの利用頻度



② 旅客船・フェリーの利用目的



大島地区のみを対象とした調査

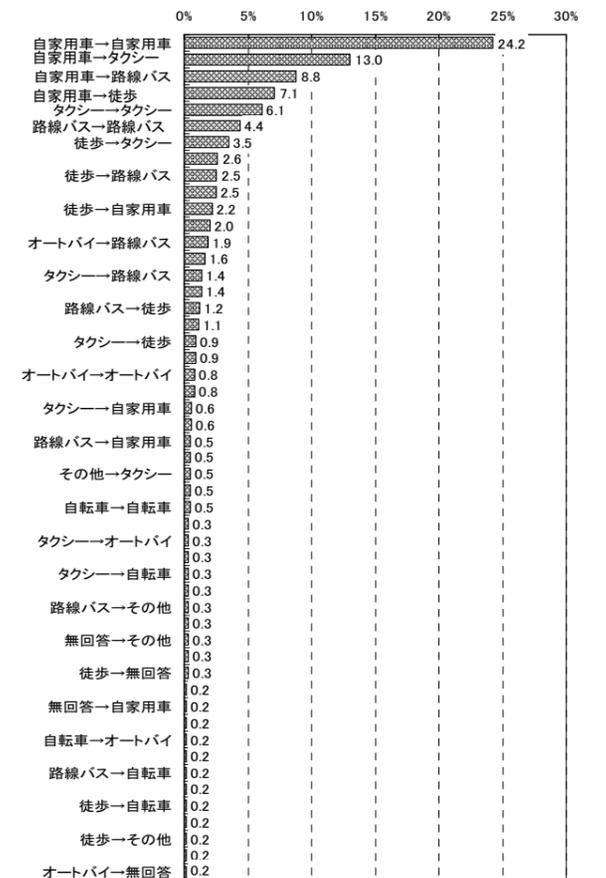
利用頻度が多く、生活に密着している

<3> 港と自宅・目的地の交通手段

大島地区のみを対象とした調査

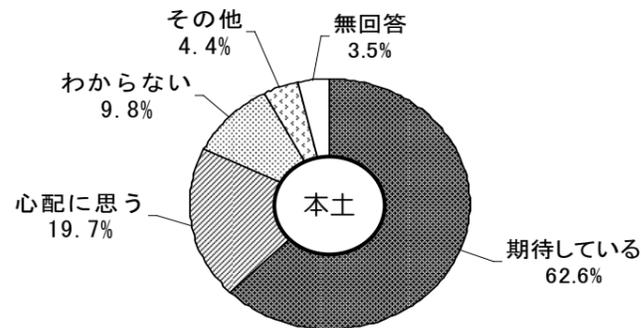
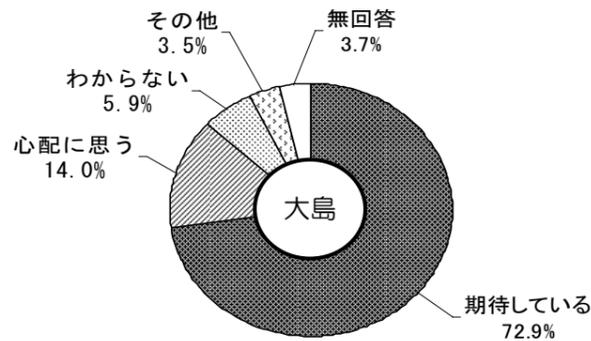
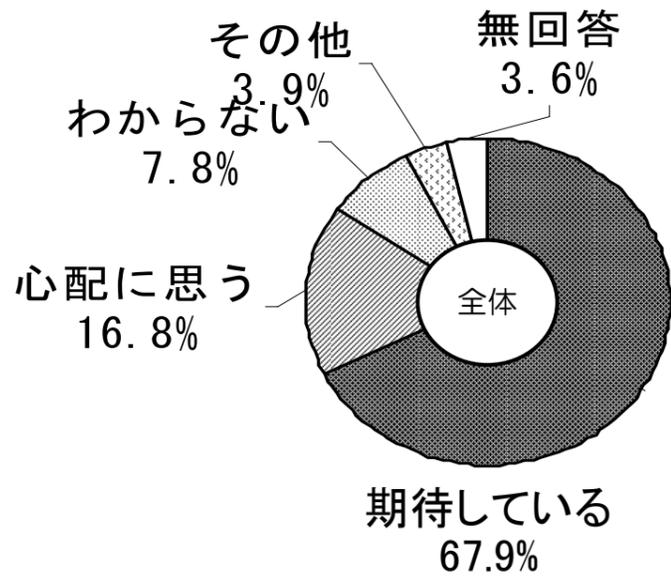
大島側と本土側の両方で自家用車を使用しているケースが約24%と多い。
この殆どは大島側と本土側の両方に自家用車を置いていると思われる。
それ以外にも、バスやタクシーを利用しているケースが多い。

大島住民に強いられている負担が大きい。



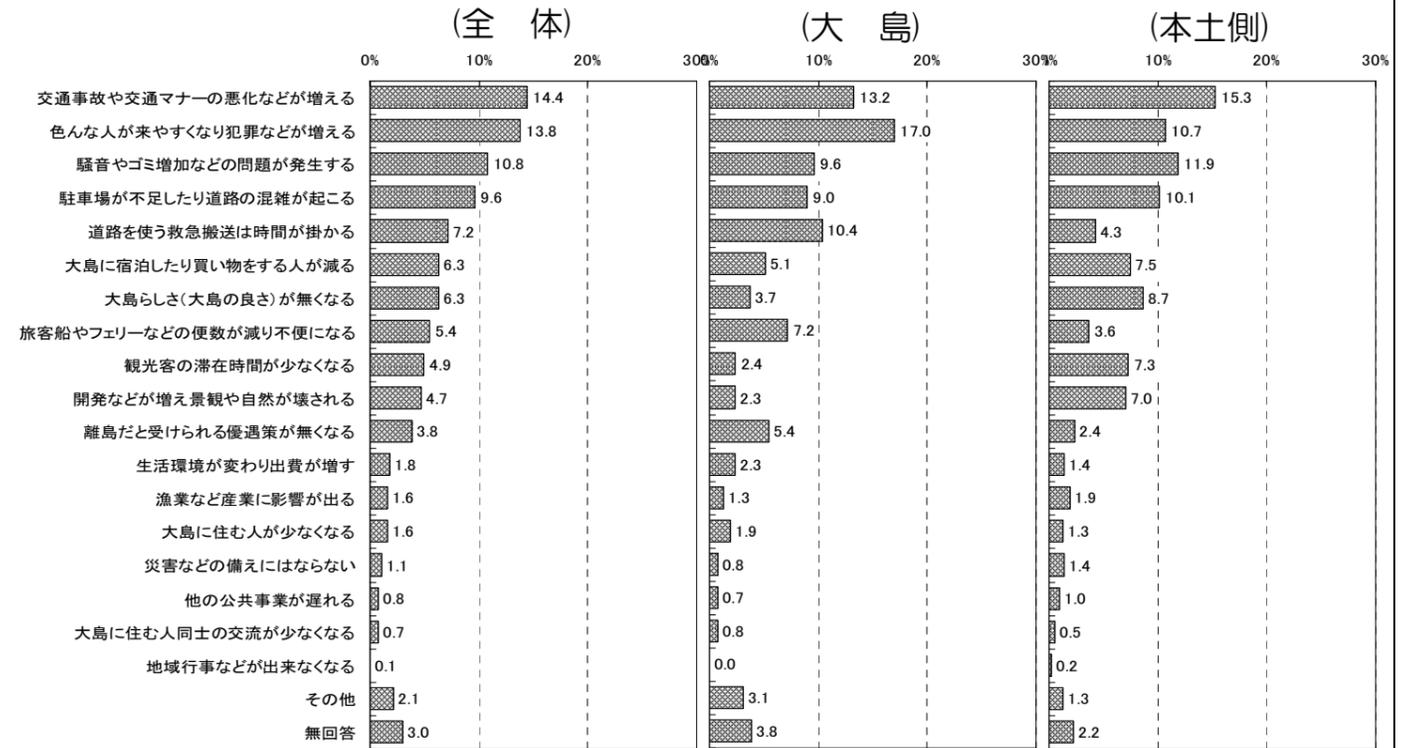
2. 大島架橋に対する期待と不安

<1> 期待と不安



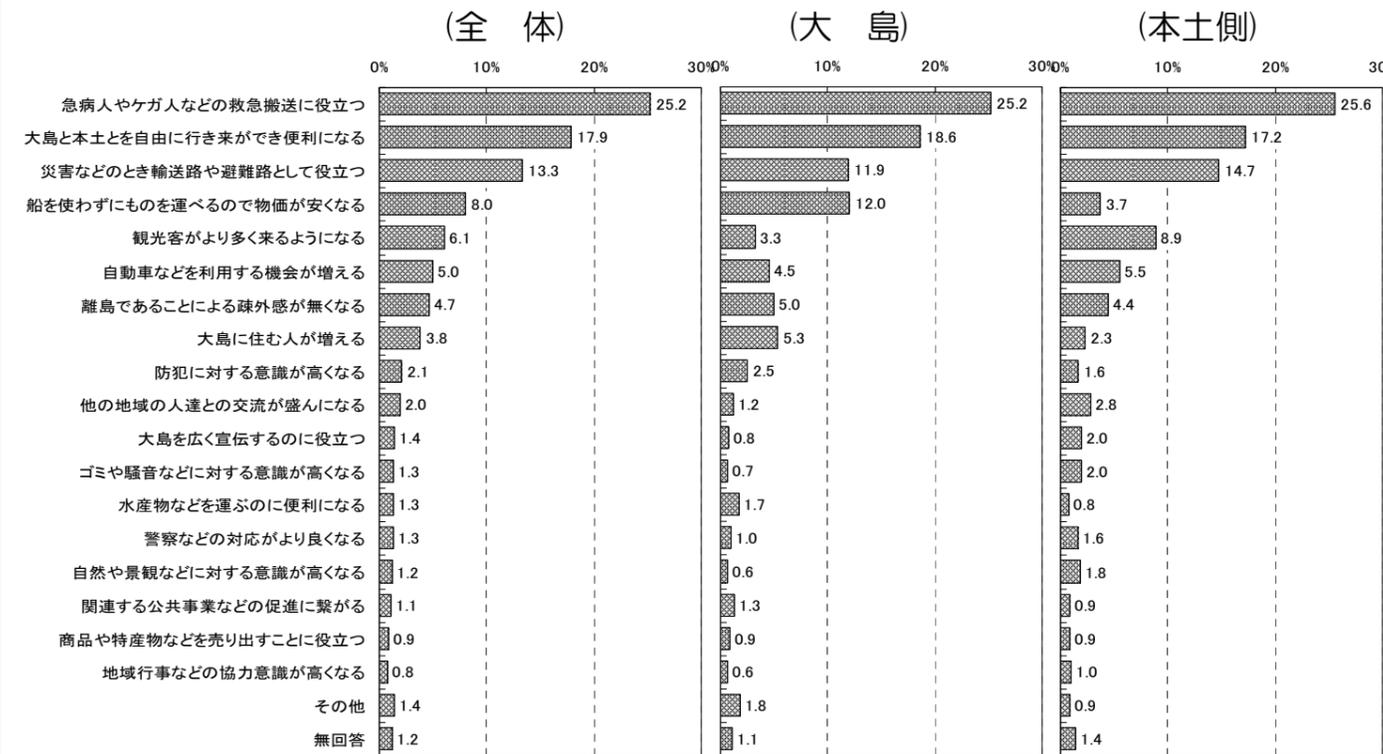
大島架橋事業に対する期待度が大きい

<3> 不安な事項



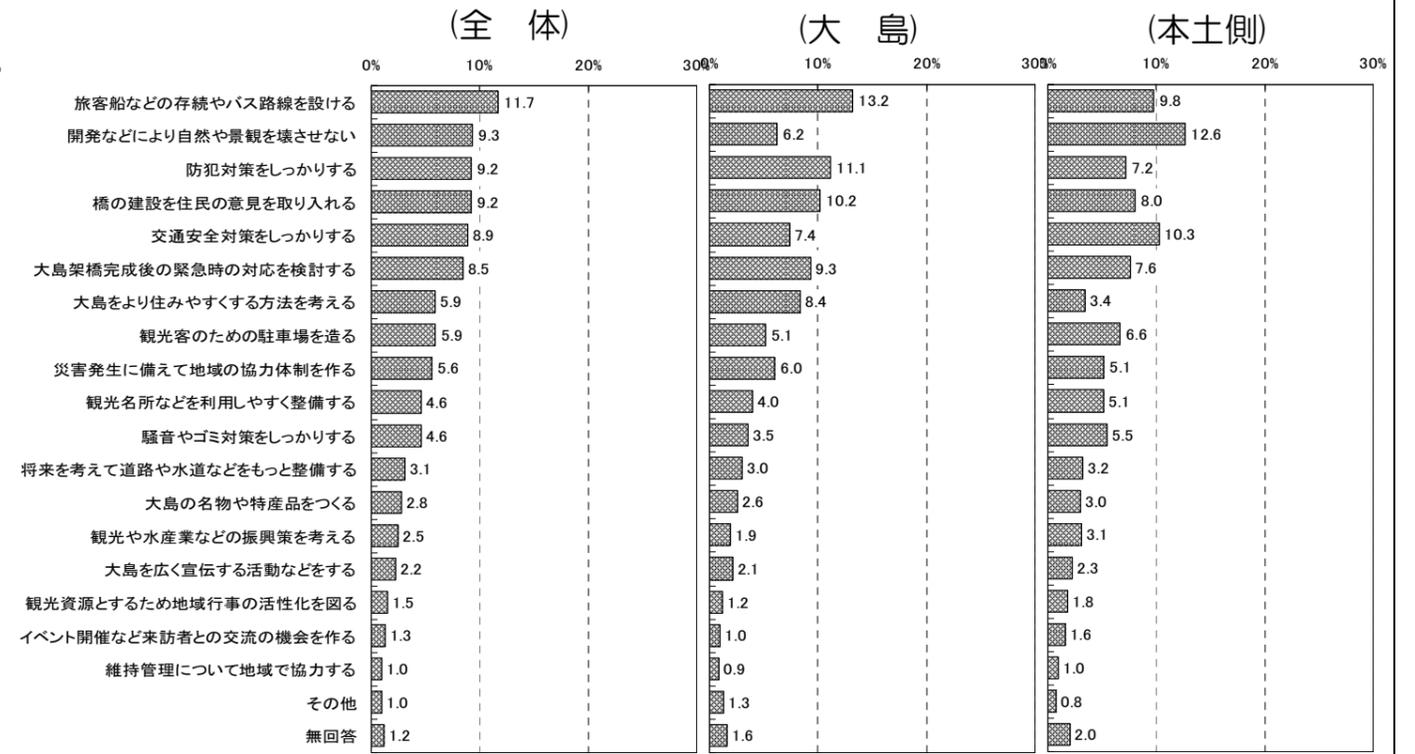
これら不安事項（架橋事業だけでは解決しない）を取り除く必要
→ 地域・産業・行政の協力体制を作る。

<2> 期待する事項



→ みんなで地域振興について考えていく必要がある。

<4> 完成までに成すべき事項



大島振興へ住民・産業・行政の役割を明確にし協力して解決
→ 懇談会の役割が大きい。